

【総領事館からのお知らせ：デング熱に関する注意】

平成25年7月16日(総13第19号)

在デンパサール日本国総領事館

報道等によりますと、今般、デンパサール市保健局長がデング熱に対する警戒を怠らないようにと注意喚起を行いました。同局長は、デング熱患者数が増加している訳では無いとしつつも、最近では季節の移り変わりがはっきりしない状態から、水溜まりが常に存在する環境となっており、水を好むデング熱を媒介する蚊も常に発生する環境にあるため、水溜まりを無くし、生活環境を清潔に保つよう心がけ、デング熱に対する警戒を常に怠らないようにする必要がありますとしています。また、同様に現在の天候は、赤痢及び気管支炎が発症しやすい環境でもあるので、衛生的な食物の摂取及び適度な運動を行うよう勧めています。

つきましては、以前にお知らせいたしましたデング熱に対する予防法等の情報を改めて以下に記しますので、ご参考としていただければ幸いです。

デング熱はインドネシアの風土病の一つであり、従来からバリ島を含むインドネシア全域で患者が確認されています。デング熱は季節によって患者数の増減はありますが通年発生が確認されています。現在の医療学においては残念ながらワクチンも治療薬も存在しませんので、蚊に刺されないよう防蚊対策をしっかりと行ってください。

症状によっては、入院や緊急移送が必要となる場合もあります。加入している海外旅行保険等の必要な連絡先を事前に確認されることをお勧めいたします。

(1) 予防方法

● デング熱を媒介するネツタイシマカ、ヒトスジシマカ等は古タイヤの溝などのわずかな水たまりで繁殖するため都市部でも多くみられることを念頭に置き、外出する際には長袖シャツ・長ズボンなどの着用により肌の露出を少なくし、肌の露出した部分には昆虫忌避剤(虫除けスプレー等)を2~3時間おきに塗布する。

● 室内においても、電気蚊取り器、蚊取り線香や殺虫剤、蚊帳(かや)等を効果的に使用する。

● 規則正しい生活と十分な睡眠、栄養をとることで抵抗力をつける。

● 突然の高熱や頭痛、関節痛や筋肉痛、発疹等が現れた場合には、デング熱を疑って、直ちに専門医師の診断を受ける。

(2) 参考

デング熱の原因はウイルスで、蚊(ネツタイシマカ、ヒトスジシマカ)に刺されて感染します。これらは早朝や夕方に活発(夜間に刺された事例もあります)で、屋外より家屋内で刺されるケースが多いようです。

典型的な症状としては、倦怠感、発熱、関節痛、頭痛、目の奥の痛みなどで、38度程度の熱が数日続き、その後発疹が出現します。一段落してからも数週間は肝機能障害や倦怠感が続きます。風邪程度で済むケースもありますが、血小板が減少して重症化、デング出血熱等になると命にかかわることもあります。

以上